

2017年度卒塾生 誠実さ

今月も2017年度卒塾生のエピソードをご紹介します。

中1の初めから入塾したこの子は、どちらかというとおとなしい子でした。とても真面目でおだやかで、いつもにこにことしていて、特に全体の中で目立つというタイプではありません。ある時の個別面談会で、お母さんは私に、「この子は前に前に出て行くという性格ではありませんが、私はそれで良いと思っています。」と、やさしく微笑みながらおっしゃっていました。とても印象的で素敵なお言葉でした。

彼女は中1、中2と真面目に努力を続けてきましたが、中3になってからは特に頑張るようになりました。自分の授業のない日でも塾に来て、一人静かに勉強しました。塾に常備してあるひざ掛けを肩からぼっこりかけて勉強していた姿が今でも私の目に浮かびます。こつこつ、こつこつ、誠実に……。ただ、時々発する言葉の端々から、自分への評価があまり高くないことがうかがえました。努力を続けても思うほど成果を出すことができない自分にもどかしさを感じていたのかもしれませんが。「理科がワカラナイ……。」そんなつぶやきをもらしながら、それでも彼女はくさることも投げ出すこともせず、自分のできる努力をひたすらに続けました。苦手な理科からも逃げることなく……。

そして、中3の第一回テスト。2年生の時に比べてぐんと上がった学年順位。続く第二回テスト。第一回ほどではないにしても、ここも順位は上々。こつこつと続けた努力が花開いてきました。あとは大切な通知表です。前に前にと出て行かない彼女がきちんと意欲を認めてもらえるか心配でしたが、大丈夫でした。先生方にも彼女の誠実な頑張りは届いていたのです。しっかり評価していただきました。2年生の時に比べて大幅アップです。続く2学期も、周りのみんなの頑張りの増す中、スタートダッシュがきいて通知表はキープできました。

志望校は“この通知表ならもっと高い高校も狙えるのに”という声も聞こえてきそうでしたが、無理のない高校に決めました。そして、見事に合格。おつりがくるくらいの内申点と当日の自己採点の点数から合格は確信できていたものの、今までの彼女の頑張りが思い起こされ、私にとっても涙の出るうれしい合格でした。

「先生！こんな問題ができたんです！」学校の最後の定期テストで理科の難問が解けたことをうれしそうに報告してくれた中3の冬のあの日。「本当に？！すごい！！よくできたね！」彼女と交わした幸せな会話。彼女の満面の笑みと弾んだ声が私の記憶の中で輝いています。